

統合実習

I. 目的

保健医療チームの一員として、実務に即した看護実践に主体的に取り組み、看護実践能力を育成する。

II. 目標

1. チームの一員としての役割を理解し、複数受け持ち患者に必要な看護が実施できる。
2. 夜勤帯における患者の看護や看護師の役割が理解できる。
3. 病棟のリーダー看護師の役割が理解できる。
4. 組織の一員としての看護師長の役割を理解し、病棟管理の実際が理解できる。

III. 実習時期

3年次後期

IV. 実習場所

岡山医療センター 5A・7A・7B・8A・8B・9A・9B・10A・10B

V. 行動目標および学習内容

実習目標	行動目標	学習内容
1. チームの一員としての役割を理解し、複数受け持ち患者に必要な看護が実施できる。	<ol style="list-style-type: none"> 1) チームの一員として、報告・連絡・相談できる。 2) 看護職間の連携・調整の内容や方法について述べられる。 3) 複数の受け持ち患者の看護の優先順位を考えることができる。 4) 複数の受け持ち患者の看護の時間管理を考えることができる。 5) 受け持ち患者の全体像を捉え、看護上の問題が明確にできる。 6) 優先順位と時間管理を考慮して複数の受け持ち患者の援助が実施できる。 7) 受け持ち患者の安全・安楽・自立を考慮して援助が実施できる。 8) 複数受け持ち患者への倫理的配慮ができる。 	<p>勤務交代時の情報提供・情報収集、チームメンバー間での報告・連絡・相談</p> <p>看護職間での連携・調整</p> <p>優先順位の判断</p> <p>時間内に業務を遂行するための時間調整方法</p> <p>情報の関連性、健康逸脱の原因・誘因、成り行き、健康上の問題</p> <p>優先順位を考えた複数患者の看護の実際</p> <p>点滴静脈内注射の実際の見学、内服準備の実際の見学、日常生活援助、処置・検査時の介助</p> <p>倫理原則（無危害、善行、自律尊重、正義）に沿った看護実践</p>

実習目標	行動目標	学習内容
2. 夜勤帯における患者の看護や看護師の役割が理解できる。	1) 患者に合わせた睡眠を促す援助を看護師とともに実施できる。 2) 患者の安全確保のための方法が述べられる。 3) 夜間帯における看護師の連携方法が述べられる。	不眠、不穏、転倒、不安・疼痛の増強、日勤帯の患者の様子、イブニングケア、眠剤の与薬、消灯、消灯後の巡視・観察方法、ナースコールの対応方法、睡眠を促すための環境調整、 夜間の危険防止のための環境調整、歩行介助、時間ごとの巡視、管理師長・当直医師との連携、優先順位の判断 日勤帯からの情報提供・情報収集、看護師間の情報共有・連携・協力・役割分担
3. 病棟のリーダー看護師の役割が理解できる。	1) チームメンバーとの連携について述べられる。 2) 病棟内での管理者との連携の必要性が述べられる。 3) 他職種との連携の必要性が述べられる。	チーム内の患者の疾患・状態・日課・検査・手術・処置の把握、看護の継続のための方法（チームカンファレンス、情報提供） チームメンバーへの連絡、チームメンバーの看護援助の進行状況把握と調整、経験年数に応じたメンバーの指導 看護師長（病棟責任者）への報告 他職種への情報伝達・情報共有、他職種との合同カンファレンス（退院前カンファレンス・NST回診・褥瘡回診・緩和ケア回診）
4. 組織の一員としての看護師長の役割を理解し、病棟管理の実際が理解できる。	1) 看護実践の管理について述べられる。 2) 医療安全管理と倫理的配慮について述べられる。 3) 薬品・物品の保管管理、設備管理、情報管理について述べられる。	良質な看護実践の提供（病院理念、病棟理念、看護方式、患者・家族への関わり）、報告・連絡・相談、他部門との連携や調整、病床管理ミーティング 医療事故の発生要因と対策、対応、安全教育（部下職員の受ける暴力対策）、感染管理（感染症、針刺し、医療廃棄物）、災害時の対応 部下職員の背景と能力への考慮、「看護職員能力開発プログラム」に基づいた教育支援、健康管理とメンタルヘルスケア、勤務時間管理、院内教育や院外での学会・研修会、安全に使用できるための管理・整備・保守点検（薬品、備品、消耗品、設備）、整備計画および修理依頼、コスト管理、診療録の整備・管理、日常業務における個人情報保護